



ガタンゴトン、ガタンゴトン、トンネルの向こう側に、いにしへの息づかいが聞こえてきます。

INFORMATION 森林鉄道体験乗車

かつて木材、物資を運んだ森林鉄道。林業が華やかだったころに大切な交通機関でもあった森林鉄道が復元されました。馬路村の「魚梁瀬丸山公園」と「馬路温泉」では森林鉄道に体験乗車することができます。自然の中を爽快に走る、子供にも大人気の体験アトラクションです。「魚梁瀬丸山公園」では、全国でも珍しい「野村式ディーゼル機関車」をはじめ、車両が今も動く状態で維持されています。機関車の運転も体験できることから、数多くの鉄道ファンが訪れます。

<p>やなせ 魚梁瀬丸山公園</p>  <p>高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 TEL.0887-43-2055 運行日：日曜日・祝日※8月土曜日も運行</p>	<p>馬路温泉</p>  <p>高知県安芸郡馬路村大字馬路3564-1 TEL.0887-44-2026 運行日：日曜日・祝日※8月土曜日毎日運行</p>
---	---

日本遺産構成文化財ガイドツアー(要予約)



日本遺産となったゆずロードを順にめぐり森林鉄道の遺構と、林業によって栄えた中芸地域のストーリーをガイドの説明とともに感じてください。

高知県安芸郡馬路村大字馬路382-1
馬路村公認 むらの案内人クラブ
TEL.0887-44-2333

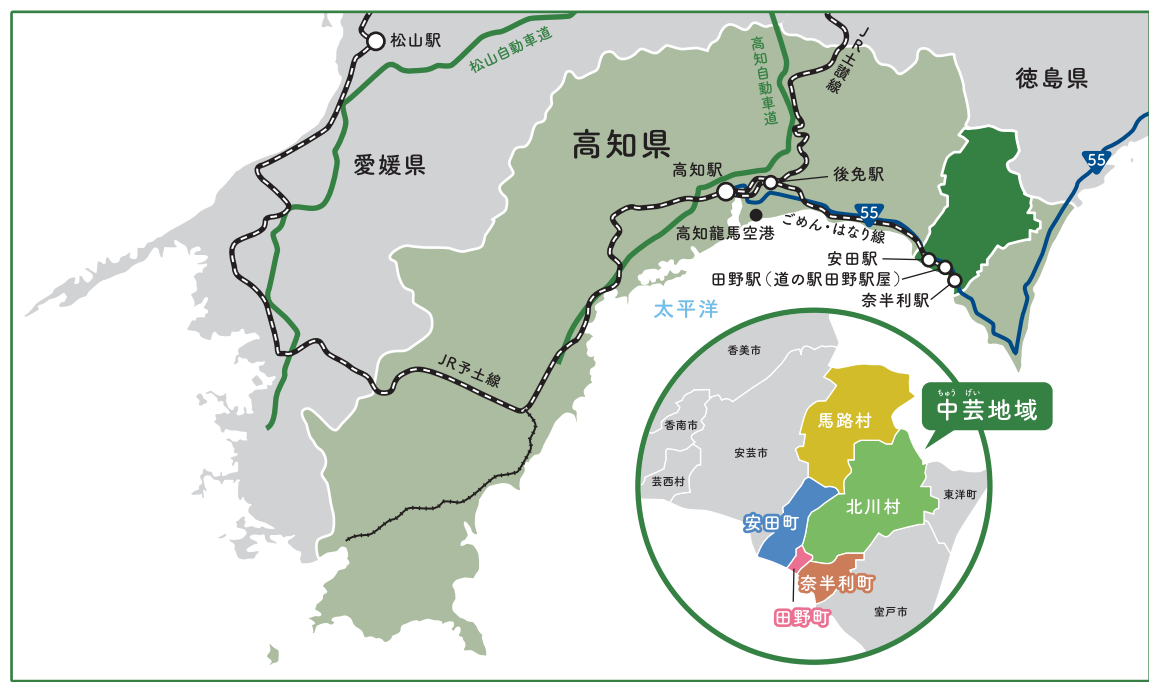
馬路温泉前駅弁当



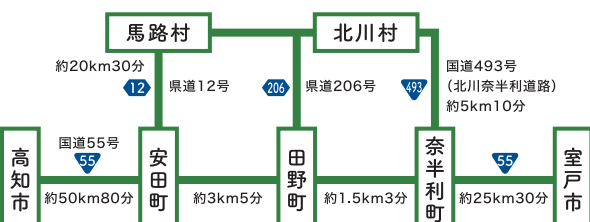
日曜日・祝日には馬路温泉で「馬路温泉前駅弁当」を数量限定で販売しています。山の幸・川の幸など、自慢の味がギュッと詰まった駅弁です。予約の場合は平日でも味わうことができます。

中芸地域までのアクセス

中芸地域へ鉄道でお越しの際は、安田駅か田野駅、奈半利駅をご利用下さい。お車でお越しの方は、まずは「道の駅田野駅屋」をめざしてお越しください。



中芸地域の玄関口、「道の駅 田野駅屋」までお車をご利用の場合



- JR高知より田野駅まで車で約75分
- 高知自動車道・南国ICより田野駅まで約60分
- 高知龍馬空港より田野駅まで車で約50分

道の駅 田野駅屋

宿泊施設のご案内

- 馬路温泉
高知県安芸郡馬路村大字馬路3564-1
TEL.0887-44-2026
- 北川村温泉ゆずの宿
高知県安芸郡北川村大字小島121
TEL.0887-30-1526
- ホテルなはり
高知県安芸郡奈半利町乙593-1
TEL.0887-38-5111

公共交通機関のご案内

高知市内からお越しの方

鉄道をご利用の場合

- 高知駅からJR土讃線で後免駅へ、後免駅で土佐くろしお鉄道(こめい・なはり線)に乗り換え、「安田駅」、「田野駅」または「奈半利駅」で下車。
- JR高知駅より田野駅まで鉄道で約90分

バスをご利用の場合

高知駅バスターミナルからとさでん交通バスで安芸営業所へ。高知東部交通バスに乗り換え、「田野役場通」または「奈半利駅」で下車。

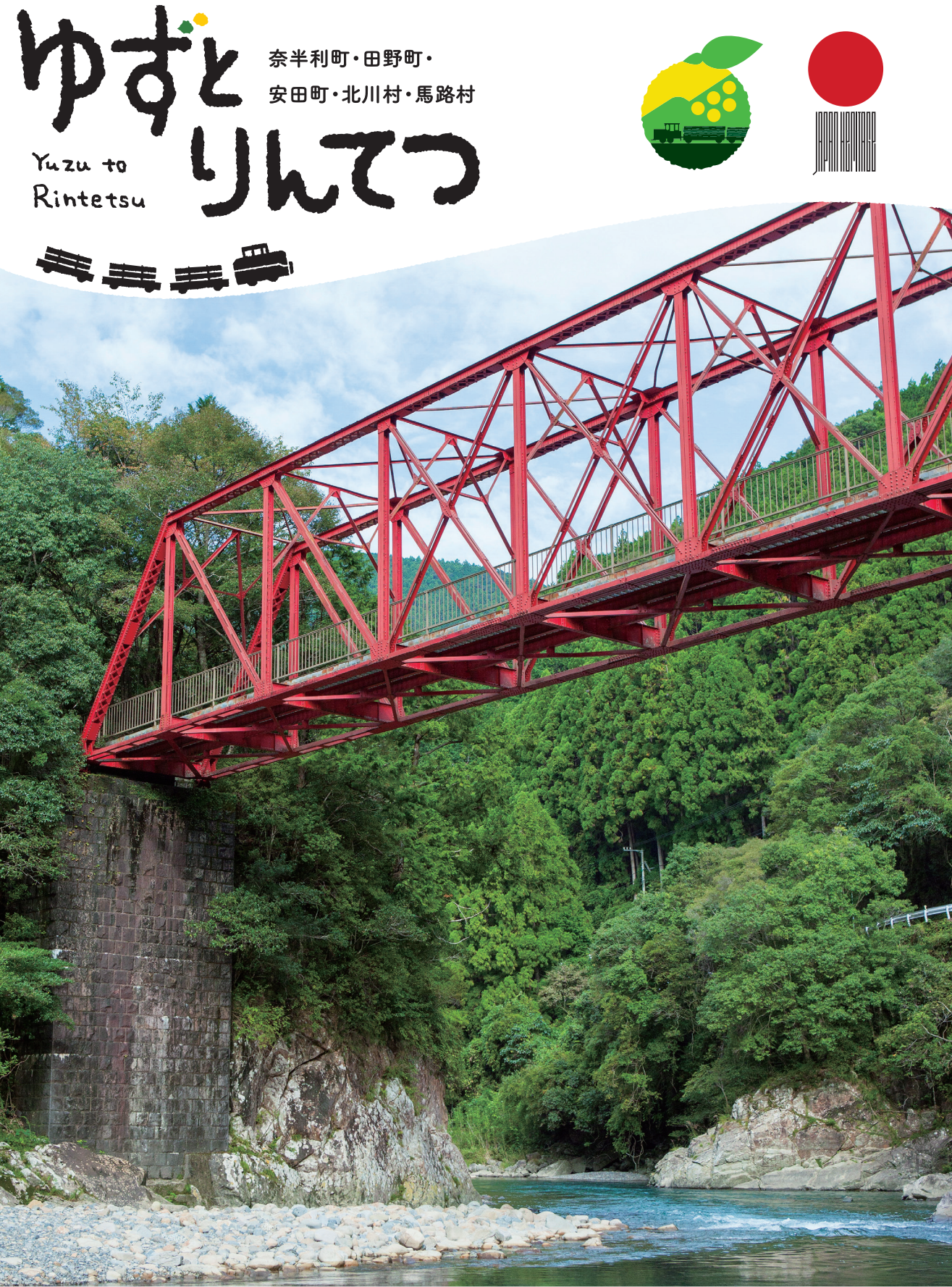
タクシーのご案内

- つばめハイヤー TEL.0120-38-4813
- 丸中タクシー TEL.0120-168-827
- 安田ハイヤー TEL.0120-808-683
- 中野ハイヤー TEL.0120-386-403
- 馬路ハイヤー TEL.0887-44-2528

中芸のゆずと森林鉄道日本遺産協会
TEL.0887-30-1865 E-mail:yuzurintetsu@mk.pikara.ne.jp
http://yuzuroad.jp ゆずとりんてつ

中芸みんなの日本遺産 森林鉄道から日本一のゆずロードへ

—ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化—



中芸のゆずと森林鉄道日本遺産について

ストーリー



南国土佐の東に位置する中芸地域。かつて西日本最大の森林鉄道が駆け巡った中芸は、林業に代わる産業としてゆず栽培に力を注ぎ、今や日本一の生産量を誇っています。木材を運んだ森林鉄道の軌道は、ゆず畑の風景広がる「ゆずロード」に生まれ変わりました。川沿いや山間に広がるゆず畑を、小さくかわいい白い花、深く鮮やかな緑の葉、熟すとともにも濃くなる黄色の果実が季節ごとに彩る景観。ゆず寿司などの風味豊かな郷土料理。中芸のゆずロードをめくれば、ゆずの彩りに満ちた景観と、ゆずの香り豊かな食文化を堪能することができます。



日本遺産構成文化財

高知県東部の中芸地域5町村(奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村)には、今も森林鉄道の記憶を残す遺構が数多く現存しています。明治44年の開通時に建造された隧道などが、平成21年2月に経済産業省の近代化産業遺産群に認定されました。さらに同年、橋梁や隧道など18箇所の貴重な土木建造物が重要文化財に指定されました。その18箇所を含む、遺構や食文化、歴史、伝統行事、風景など48の構成文化財とストーリーが平成29年度に日本遺産に認定されました。

日本遺産とは



～我が国の文化・伝統を語るストーリーを認定～
「日本遺産(Japan Heritage)」は地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定する「日本遺産」に高知県東部の中芸5町村のストーリー「森林鉄道から日本一のゆずロードへ—ゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化—」が認定されました。

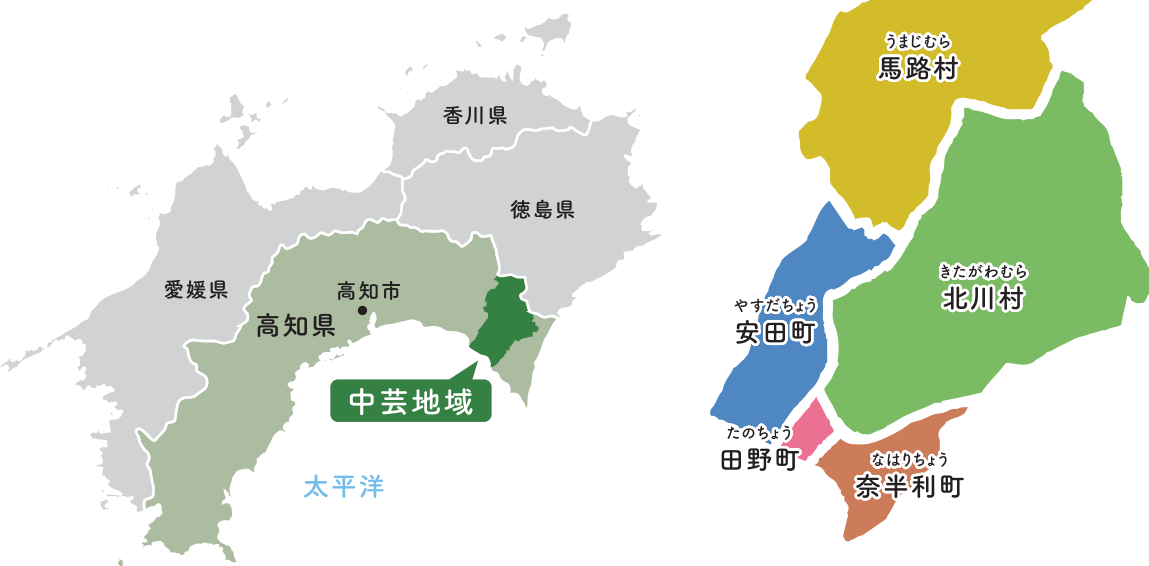
日本遺産構成文化財(48ある構成文化財の一例です。)

<p>せんぼんやま 千本山</p>  <p>良材として知られた魚梁瀬杉の天然林のほとんどが伐採されましたが、千本山には、樹齢200～300年になる原生林が残され、魚梁瀬杉の巨木とともに、原始的景観を見ることができます。千本山登山口よりハイキングも楽しめます。</p>	<p>のらしまきかみや 野村式機関車(動態展示)</p>  <p>奈半利町の工場で製造され、昭和期の森林鉄道で、木材の大量輸送に大きく貢献したのが野村式機関車です。その野村式L69号機関車を修復し、馬路村魚梁瀬丸山公園に動態展示しました。日曜日・祝日には体験乗車ができます。</p>	<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ こみずいどう 旧魚梁瀬森林鉄道施設 五味隧道</p>  <p>安田川沿いで、馬路村の出入口ともいえる場所にある石造隧道です。明治44年の安田川線開通時に建造されました。隧道の上は自動車道を通すため土で埋められたが、川上側にアーチ形の坑門と約5.5メートルが現存しています。</p>
<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ あしひんくばし 旧魚梁瀬森林鉄道施設 神明口橋</p>  <p>安田川本流を渡るためにつくられた橋は、大正時代に検材の木造で建造されましたが、機関車の導入に伴い、昭和4年に現在の鉄骨トラス橋に架け替えられました。軌道部分は撤去されましたが、今もトラス橋、橋台とも、当時の姿を留めています。</p>	<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ えやすいどう 旧魚梁瀬森林鉄道施設 エヤ隧道</p>  <p>川の屈曲部分に張り出して屋根の岩盤を貫いてつくられた石造隧道で、川に沿ってゆるやかにカーブしています。明治44年建造の隧道には川下から順に番号がつけられており、この隧道には「1」の刻印があり、開通当時の建造を示しています。</p>	<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ こしまほし 旧魚梁瀬森林鉄道施設 小島橋</p>  <p>奈半利川本流を渡るためにつくられた単線仕様の鋼トラス橋で、昭和7年に建造されました。橋長約143メートルと、中芸地区の森林鉄道では最大の規模です。トラス橋とガード橋が組み合わせた堂々とした構えは、遠目からでも見映えがします。</p>
<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ ほりがねばし 旧魚梁瀬森林鉄道施設 堀ヶ生橋</p>  <p>堀ヶ生隧道に隣接し、奈半利川を渡る無筋コンクリートの充て足単アーチ橋です。昭和16年に建造され、当時としては我が国最大級を誇りました。橋の両側に待機所、中央には台形平面のバルコニーがあり、当時の森林鉄道の情景を偲べさせます。</p>	<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ たかほらごころごころ 旧魚梁瀬森林鉄道施設 立岡二号棧道</p>  <p>立岡分岐から奈半利野馬場に向かう様道で、昭和8年に建造された石積高架と10連のコンクリートガード橋です。今川川岸や川の中間の橋台と、2道目までのトラスを載せた橋脚が3基残存しますが、当時、県内最高技術で建設されたと評判でした。</p>	<p>きゅうやなせせんりんてつどうしせつ ほらふしにせきまよう 旧魚梁瀬森林鉄道施設 法恩寺跨線橋</p>  <p>奈半利野馬場の西側、旧街道の北側に位置し、三光院より旧街道へ至る石造アーチ橋(跨線橋)です。森林鉄道を通す際に三光院の台高の斜面を切り崩し、跨線橋が橋道の役割をします。昭和8年、立岡～奈半利線の開通に合わせて建造されました。</p>

中芸地域の案内

中芸地域とは

高知県の東に位置する中芸(ちゅうげい)地域。高知県安芸郡の奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村の5町村のことを中芸地域と呼んでいます。日本でも数少ない完全自然の森林鉄道が駆けめぐっていました。中芸地域は、かつて西日本最大の森林鉄道が駆けめぐっていました。そして、現在では、日本一のゆずの産地として全国に出荷しています。



<p>自然と歴史が調和した静かで美しい港町</p> <p>北東に野根山のそみ、歴史を感じさせる古い町並みと特徴とする奈半利の町は、記実之の「土佐日記」にも記されています。土佐と阿波を結ぶ「野根山街道」があり、交通の要衝として栄えてきた町でもあります。町のあちこちに旧跡や寺院が数多く点在し、奈半利町の古い町並みは町歩きも楽しめるスポットです。港町の名産で、飲食店が多いのも特徴。太平洋の約70種類のサングが見られるサングウォッチングも人気です。</p> <p>奈半利駅</p>  <p>駅から太平洋を一望できる景観は一見の価値があります。新鮮な野菜、弁当、地酒、ゆずジュースなど高知県東海岸の美味が、皆さんの魚通も生息しています。カヤックやシュノーケリングで幻想的な海の中のを散策体験はいかがですか？</p>	<p>日本一の鮎の棲む清流の町</p> <p>歴史遺産ともいえる鉄橋やトンネル、軌道跡など遺構が数多く残っている、ノスタルジックな雰囲気のある町です。中芸5町村一帯を結ぶ「旧魚梁瀬森林鉄道施設」は、交通機関として昔々の生活の足になり、地域の交流にも役立ちました。町の中央を流れるタムのない川、清流安田川は川本来の自然体系が今も息づいていて、中でも鮎は「全国清流めぐり利き鮎会」で2度のグランプリに輝きました。近年は、景観の美しさが見直され、キャンプ場の整備や、イベント開催など、観光面の開発が積極的に進められています。</p> <p>輝るぼーと安田</p>  <p>安田町の玄関口、国道55号沿いにある総合交流拠点施設。地場産品販売センターや地元食材を使ったレストラン、鮮度抜群の魚を取り扱う店舗が集まり、安田町の四季の恵みを食を通じて感じることができると好評です。</p>
---	---

豊かな自然に恵まれた四国一面積の小さな田舎の町

高知県の東部に位置した総面積6.53km²の四国一面積の小さな町です。江戸時代、政治・経済・文化の中心地として大いに繁栄し、今なお当時の繁栄を感じさせる建築物がその面影を残しています。天保15年(1844年)に建築され、藩主が東部巡視の時の本陣として使用していた「岡御殿」は昭和60年に県の有形文化財に指定されました。お殿様やお姫様の貸衣装サービスもあります。

道の駅 田野駅屋



「ごめん・なはり線」、田野駅と一体となった四国一元気な道の駅。日本の特産品やご当地グルメを取り扱う直販コーナーや軽食コーナーを併設した田野町の魅力が詰まった施設です。また、田野町の魅力を自転車で行りながら感じてもらうために、レンタサイクルもなっています。

田野町完全天日塩製塩体験施設



ここでは、太陽熱と風力の自然エネルギーだけで塩を作っています。日本でも数少ない完全天日塩の塩づくりを、間近で見たり体験することができます。

日本一の鮎の棲む清流の町

歴史遺産ともいえる鉄橋やトンネル、軌道跡など遺構が数多く残っている、ノスタルジックな雰囲気のある町です。中芸5町村一帯を結ぶ「旧魚梁瀬森林鉄道施設」は、交通機関として昔々の生活の足になり、地域の交流にも役立ちました。町の中央を流れるタムのない川、清流安田川は川本来の自然体系が今も息づいていて、中でも鮎は「全国清流めぐり利き鮎会」で2度のグランプリに輝きました。近年は、景観の美しさが見直され、キャンプ場の整備や、イベント開催など、観光面の開発が積極的に進められています。

輝るぼーと安田



安田町の玄関口、国道55号沿いにある総合交流拠点施設。地場産品販売センターや地元食材を使ったレストラン、鮮度抜群の魚を取り扱う店舗が集まり、安田町の四季の恵みを食を通じて感じることができると好評です。

幕末の英雄が生まれた、豊かな自然が広がる山村

北川村は、村の約95%が森林という豊かな自然の中にある、人口1200人ほどの小さな村です。ゆずの名産地でもあり、高知県は全国シェア50%を誇るゆずの産地ですが、その15%が北川村で生産されています。どの世代が来て楽しめる「モネの庭」マルモッタンや、明治維新へ向けて活躍した幕末の志士、中岡慎太郎の資料館、北川村温泉ゆずの宿など数々の見所があります。

北川村「モネの庭」マルモッタン



印象派の巨匠であるモネの愛した庭として有名なフランス、ジヴェルニーにある「モネの庭」を高知の自然の中に再現したのが、北川村「モネの庭」マルモッタンです。それまで門外不出だった「モネの庭」をフランスのモネ財団より名を許されています。季節とともに、色彩を変えるモネの作品のような美しい庭を散策できます。

中岡慎太郎館



坂本龍馬とともに維新回天に尽くした幕末の志士、中岡慎太郎の資料館です。北川村出身の中岡慎太郎は、20歳で庄屋見習いとしてゆず栽培などを指導し、農民のために活躍しましたが24歳の時に土佐勤王に加盟。その後脱藩し、その生涯を維新回天のために日本を動き回りました。その慎太郎の30年の生涯を「中岡慎太郎館」が伝えてくれます。

魚梁瀬杉で栄えた山間の「ゆずの村」

馬路村は、周りを1,000m級の山々が囲む、山奥の小さな村です。県内でも指定されている魚梁瀬杉が育ち、藩政時代には土佐藩の有力な財源であったといわれています。「ゆずの村」としても知られ、ほんのりしたゆずの村や、ゆずはちみつ飲料「こっくん馬路村」は、県内のみならず、首都圏でも流通している名産品です。村を代表する宿泊施設「馬路温泉」は地元ならではの料理と美肌効果があると評判の温泉が自慢で、毎年多くの宿泊客が訪れています。また、「日本でも最も美しい村連合」への加盟や「ほんの里100選」への選出など、景観に配慮した村づくりを進めています。

馬路温泉



魚梁瀬杉とゆずの産地として知られる高知県馬路村の清流・安田川沿いに湧く温泉です。宿泊や食事も可能な「コミュニティセンター」内に、日帰り温泉施設の「馬路温泉」があります。広々とした男女別大浴場と半露天風呂、家族風呂が揃っています。泉質はナトリウム、炭酸水素塩・塩化物系で肌にやさしく、入浴後にスベスベになるのが特徴です。

made in 馬路



人口約800人の村でつくり出される特色ある製品たち。馬路村産品のゆず製品は統一感のある田舎ならではのデザイン、グッドデザイン賞を受賞した木の「ビッグ(monacca)」は、デザイン性が高く評価されていて、知名度も全国的。